

2020年度 第44回 全日本U-12サッカー選手権大会 東京都11ブロック大会  
11ブロック 大会要項

- 1、主催：公益財団法人 日本サッカー協会 公益財団法人 日本体育協会日本スポーツ少年団 読売新聞社
- 2、主管：東京都少年サッカー連盟
- 3、後援：日本テレビ放送網 報知新聞社
- 4、期間：11ブロック大会 2020年9月6日・13日・21日・22日(予備日)
- 5、会場：稲城市：南多摩スポーツ広場サッカー場 稲城市：稲城長峰ヴェルディフィールド
- 6、参加資格
  - a 2020・東京都少年サッカー連盟大会要項「中央大会・ブロック大会共通事項」に準じる。
  - b 参加チームは大会実施年度に日本サッカー協会(以下本協会)第4種に加盟したチーム(加盟チーム)であること(準加盟チームを含む)。参加チームの構成は、単一加盟チームに限られ、その加盟チームは年間を通じて継続的に活動していること。
  - c エントリーチームはグラウンド提供から会場運営など大会の運営に協力できるチームであること。
  - d 本協会公認指導者資格D級以上を有する2名以上5名以下の指導者が引率(ベンチ入り)出来ることが必須だが、3人目から5人目の内1名は指導者資格を有しないメディカルスタッフとしてベンチ入り可能。
  - e 小学生6年生主体で編成された2020年度第4種に加盟した単一チームで、チームは年間を通じ継続的に活動していること。なお5年以下の選手は健康、体格、体力、技能等を十分に考慮しチームの責任において出場させること。
  - f 所属選手はJFAの選手証を有し試合に持参すること。(個別もしくはは一覧の、印字された選手証が必須)  
\*JFAに登録申請して送金済であっても、webで選手証が発行されない限り選手登録できない。(2020年度より)
  - g 複数チーム参加は、6年生が20人以上登録されており、2チーム(A,Bチーム)ともに6年生だけで構成し下級生の登録をすることはできない。
  - h 引率指導者は複数チームを兼務できない。複数チームの代表者はいずれにおいても兼務できる。
  - i 移籍については、2020年度連盟大会要項『移籍規定』に準じる。ブロック委員長の承認が必要でブロック大会から全国決勝大会に至る間に移籍した選手は、再び同一大会に参加することは出来ない。

**7、新型コロナウイルス対応のための、期間限定特別ルール 【11ブロックローカル規定】**

- a 感染症対応特別ルールが施行される期間は「8、競技会規定」より感染症対応特別ルールが優先される。
- b 試合会場(グラウンド及びベンチ)と管理区域(グラウンド周辺)を設定し、その中には**応援・観戦者の入場は不可**とする。
- c 大会は**無観客試合**とし、試合会場に入れるのは登録用紙に記載された選手と、2名から最大5名のスタッフのみとする。
- d 熱中症対策や荷物の管理等で別途保護者を最大**3名まで協力スタッフ**として管理区域(グラウンド内は不可)への入場を認める。その3名は11ブロックで用意し配布する新たな「STAFF証」を常時首にかけて掲示していなければならない。(メディカル証の複製は不可、「STAFF証」を入れる首掛け式カードホルダーはチームで用意する)  
協力スタッフの役割はチームや選手の保護であり、**応援や撮影ではない事**を認識しなければならない。
- e 無観客=観戦者無しなので、**先乗りしての試合観戦や試合後の居残り観戦は不可**とする。各チームはアップの時間に合せて会場入りし、試合後は(運営や審判の割当てスタッフ以外)速やかに会場から全員退去すること。
- f 試合会場に入場の全選手及びベンチ入りスタッフと管理区域へ入場できる協力スタッフ(大会敷地内に留まる全ての者)は11ブロック指定の『**健康チェックシート**』を記入し、自チームの試合の30分前までにメンバー表などと共に本部運営に提出しなければならない。『健康チェックシート』は確認後返却される。
- g 健康チェックシートには個人情報に保護者の署名と、試合の**2週間前から試合当日までの起床時の体温**と体調と同居人の様子を記載しなければならない。
- h コロナ対策用登録用紙兼メンバー表の体温の欄には、会場入りした時点で検温された体温を記載しなければならない。そのために**チームは体温計(接触・非接触問わず)を持参し**、全選手とベンチ入り及び協力スタッフが会場入りした際に自チームにて検温し、その数値を「登録用紙兼メンバー表」の所定欄に記載しなければならない。体温計を持参しなかったチームは、本部にて非接触型体温計の借用もしくは本部にて検温することが出来る。(本部には11ブロックで用意した非接触型体温計が用意されている。使用后・返却時には消毒する)
- i 当日の体温が**37.5℃以上の者**は選手・スタッフとも出場出来ず速やかに隔離措置されなければならない。非接触式体温(温度)計で37.0℃以上の結果が出た者は、正規の接触式体温計で再検温し、接触式体温計の結果を優先する。健康チェックシートで過去2週間以内に37.5℃以上の高温が数日間続いていた者も会場入りさせてはならない。
- j 健康チェックシートは確認後返却するが、個人情報が記載されているので、各チームの11ブロック**登録済の管理責任者**が責任をもって保管しなければならない。また感染者やその疑いのある者が発生した場合、11ブロック委員長は該当するチームの管理責任者が保管している健康チェックシートの1部もしくは全部の提出を求めることが出来る。この場合の個人情報は11ブロックもしくは提出先の東京都少年連盟が責任をもって保護する。
- k 感染防止のため、結果報告書や審判報告書やその他報告書に記載するための『**ペン**』を、運営担当者と各チームの代表者

(結果報告書に署名する人)及び審判員は必ず持参して「使い回し」をできるだけ避ける。

同様に空気入れや空気圧計などは基本的に持参した者だけが使用するのが望ましい。体温計も同様。

ただし速やかな大会運営のために上記を他の者が利用しても仕方がないが、使用後は必ず消毒してから返却する。

l 会場入りの際、全ての関係者はマスク（もしくはフェイスシールド）着用を必須とする。ベンチでの選手やスタッフもマスク等着用とし、選手も審判員も用具チェックの際はマスク等を着用する（フィールドに立つまで原則着用）。

本部役員や運営担当及びフィールド外スタッフも会場にいる全てが対象で、マスク類を原則着用とする。

運営当番及び審判員用に、11ブロックでフェイスシールドを用意する。

同様に石鹸や消毒液をチームで持参し、会場入り後は全員が手洗い・消毒を行い、常に他者との距離を保つ。

m 試合では、開始や終了の挨拶は相手チームとの距離を**2 m以上取って整列**(左右の間は1 m以上)し、主審の笛の合図で一例のみ行い、**声掛け・握手・ハグ・ハイタッチ**は禁止する。同様に**円陣**も組んではならない。また、ベンチ指導者は、大声を出しての指示や選手に触れることを極力控える。ベンチスタッフ同士の挨拶も無しとする。

n 熱中症対策は従来通りWBGT計の指数を目安に対応する。新型コロナウイルス感染症対応と相反する場面が出た場合は、より生命への危険度の高い**熱中症対策を優先**とする。

例) ベンチでは密を避けるよりテントの日陰に入ることが優先。マスク着用のせいで体調不良を起こしそうな選手やスタッフは競技場から離れて涼しい場所で回復に専念する。マスク(又はフェイスシールド)着用は必須だが、アップや試合の際にはマスク等を外して熱中症に備える。審判も競技のフィールドに入ったらマスク等を外す。

## 8、競技会規定

### ①、競技会規則

a 日本協会2020/2021競技規則を基本とする最新のルールを適用する。

b 「8人制サッカー競技規則」の最新版に準じる。

但し「東京都少年連盟大会要項」および「本大会要項細則」が優先する。

### ②、競技のフィールド

a フィールドの表面は天然芝、人工芝が望ましいが、クレーでも可(ライン表示はマーカーの使用可)

b フィールドの長さ(タッチライン)は68m、幅(ゴールライン)は50mを基本とし、照度が十分に確保されていること。

交代ゾーンとして中央から両側に3mのマーク(タッチラインから5cm離して30cmの線)を設ける。

c ペナルティ-エリア等・・・ペナルティ-エリア12m、ゴールライン~ペナルティ-マーク8m、

ゴールエリア4m、ペナルティ-アークの半径7m、センターサークルの半径7m、コーナーアーク1m。

d テクニカルエリアは設置しない。戦術指示はその都度ベンチのただ1名の有資格指導者のみが行える。

e ハーフタイム時のフィールドでは、次の試合のチームの練習のための利用を認める。

### ③、ボール

a 両チームから各1個ずつ0.8気圧(ber)にした4号公認検定球を、当該試合開始10分前の用具チェック時までに会場本部運営に持ち寄る。

b 主審は、0.8気圧を基本として、そのボールにおいて適切な値とする。(主審判断)

### ④、試合形式

a 試合形式はトーナメント戦とし、**上位3位**までが中央大会に出場できる。

b 競技時間は40分とするが、荒天等により大会日程が不足した場合、30分で行う事もある。インターバルは5分、アドレショナルタイム表示はしない。

c 飲水タイム(1分間を超えてはならない)やクーリングブレイク(90秒間から3分間内)を設けた場合にはアドレショナルタイムとして扱う。

d 同点の場合はPK戦で勝敗を決める。決勝戦のみ5分ハーフの延長戦を行い、決しない場合にPK戦を行う。

e 勝敗を決めるペナルティ-マークからのキック(KFPM)は、終了時にピッチにいた選手で行うが、ゴールキーパーが負傷で参加できなくなった場合は、控えのゴールキーパーと入れ替わることができる。

f PK戦(KFPM)は3人制で行い決着しない場合はサドンデス方式とする。

### ⑤、競技者

a 8人の競技者(うち1人はゴールキーパー)が試合に出場する。試合の都度のチーム登録人数に制限はない。

b 選手証のない選手は登録・申請できない。

**追加登録申請中で支払い証明があっても、選手証が発行されるまで登録できない。(2020年度から)**

c フィールドプレーヤー(FP)は交代ゾーンから自由な交代とする。ゴールキーパー(GK)の交代は主審に通知し試合停止中に行う。交代で退くGKは一番近いタッチラインかゴールラインから出なければならない。

交代で入場するGKは交代ゾーンから入らなければならない。

d 一方のチームが8人に満たない場合は試合を開始しない。試合中の負傷者・退場者は即時補充する。

試合が開催出来なかった場合、8人に満たないチームの放棄試合として不戦敗扱いとする。

e 試合進行中および終了時、フィールド上に6人未満の場合試合は不成立(6人未満のチームの放棄試合)となる。なお、

主審の許可を得て、用具を正すまたは負傷の処置で一時的に6人未満の場合はその限りではない。本項は早期復帰する

- ことが条件となる。復帰の見通しがたない場合は主審の判断で競技を終結させて放棄したチームの不戦敗となる。
- f 競技者が退場を命じられた場合、その競技者のチームは交代要員の中から競技者を補充する。主審は補充が完了するまで競技を再開しない。交代要員はユニフォームと異なる色(ビブス等)を着用する。
  - g 試合に出場(ベンチ入りも)出来る競技者は、登録用紙兼メンバー表登録者で用具チェックを受けた者だけとする。出場停止や用具不備、応援のためだけでベンチ入りすることは出来ない。
  - h 退場処分(1試合中での警告2枚及び試合中に1枚+KFPMで2枚の警告の場合を含めて)や累積警告2枚(KFPM時を含める)となった選手は、次の試合には自動的にベンチ入り含めて出場できない。  
**内容によっては規律委員会で追加処分を与える場合がある。**
  - i 選手はチームの最初の試合の30分前には選手証を提出、試合の都度10分前には氏名と用具を、それぞれ運営本部や審判のチェックを受けなければならない。(時間厳守)  
後から参加する選手がいない場合は2試合目以降は選手証の提出は不要でメンバー表のみで良い。
  - j 選手は必ず傷害保険(スポーツ安全傷害保険)に加入していること。

⑥、競技者の用具(ユニフォーム) **規定への抵触の有無等の確認がある場合は大会前に役員へ照会する。**

- a 日本サッカー協会「ユニフォーム規定」に則る。  
※チーム名やチームを示すエンブレムをシャツの前面に表示する(背面は任意)。
- b 選手番号は規定(背面:縦25cm-35cm、前面:縦10cm-15cm)サイズを適宜縮小することができる。
- c 番号表示はシャツの背面及び前面に必須とする。ショーツには表示を推奨する。
- d ユニフォームのメーカーロゴの違い、モデルチェンジによる微妙なデザイン変化、ソックスのライン数など購入時期の違いでの微妙な色の違いなどの細部には言及しない。
- e 試合には必ずF Pの正副とG Kの正副を持参し、用具チェック前に対戦相手と相談の上、試合で着用するユニフォームを決める。相談が纏まらなかった場合は審判によるコイントスで正副を決める。
- f その試合で必ずゴールキーパー(G K)がフィールドプレーヤー(FP)に代わることが決まっている場合においても、ゴールキーパー時にはゴールキーパー用、フィールドプレーヤー時にはフィールドプレーヤー用それぞれのユニフォーム上下を着用し、且つG K時とF P時とも同じ背番号でなくてはならない。  
なおこの対応はアディショナルタイムに加算する。(11ブロック ローカル規定)  
・・・予期せぬ事態以外でのF PとG Kが同色のパンツとソックスの着用は認めない。
- g ゴールキーパーの予期せぬ事態(戦術的理由ではなく怪我や退場により後退せざるを得ない場合や控えのGKがいないケース)でのフィールドプレーヤーとの交代の際は、他のプレーヤーと区別する為、試合で使用していない正副いずれかのシャツで本人の番号であれば着用可能だが、それが難しい場合、番号無しの安全なジャージやTシャツ等を着用し試合を続けることが出来る。
- h ゴールキーパーの正副は同じデザインが基本だがメーカーのモデルチェンジでの多少の違いは問わない。また3人目からのG Kのユニフォームは前の2人と異なるデザイン・色彩でも良いが、シャツ・ショーツ・ソックスは正副を揃え且つF Pと区別できる色とし、本人固有の番号であること。
- i 選手番号は試合の都度その選手固有のものとし、試合ごとに変更する事ができる。(11bローカル規定)

⑦、引率指導者 2020・東京都少年連盟大会要項「参加資格について」に準じる。

- a ベンチ入り引率指導者は全て本協会公認コーチ資格(D級以上)を有する2名以上5名以下であることが必須だが、3人目から5人目の内1名は指導者資格を有しないメディカルスタッフとしてベンチ入りする事ができる。
- b ベンチ入り指導者は登録用紙兼メンバー表に、氏名・指導者証番号・資格級・**責任順位**を記載する。
- c 登録用紙兼メンバー表の指導者の氏名の左の欄には、その試合のベンチ入り**全指導者の責任上位順に①②③④⑤を記載する。メディカルスタッフがいる場合、その氏名の左の欄には「○」のみで良い。**  
**また、主審が判別しやすいように、ベンチの一番センター寄りには責任上位①位のスタッフが座る。**
- d ベンチ入り指導者は、指導者証を印字して試合の都度透明な首掛け式カードケースに入れて、当日の自チーム最初の試合30分前までに、必要事項が記載された登録用紙兼メンバー表と選手証と一緒に本部運営担当に提出してチェックを受けなければならない。
- e 試合開始から終了まで、登録表兼メンバー表に記載され、指導者資格証を首掛け式カードケースで掲示した2人以上5人以内のチーム指導者がベンチにいないといけない。例外として前後の試合の審判対応での退席の間、ベンチの指導者が1名になる事は認められる。
- f 後から参加する指導者がいない場合は2試合目は指導者証の提出は不要でメンバー表のみで良い。
- g 試合中の戦術指示は、その都度ただ1名の指導者証掲示のスタッフが立ち続けて行うことはできるがテクニカルエリアを設けないので、**移動せずその場で**指示を行わなければならない。
- h 試合開始から終了まで、メディカルスタッフは首掛け式カードケースに入ったメディカル証を掲示していること。
- i 指導者資格保持者は指導者証を掲示してベンチ入りし、メディカルスタッフとしてベンチ入りしない。
- j メディカルスタッフは戦術的指示はできない。**指示が発覚した場合は警告や退場の対象**となる。
- k 警告2枚や退場となる反則を犯したメディカルスタッフは、他にそのチームで対応ができる医療担当が不在で競技者に治療が必要な場合、試合に留まることが出来る。
- l ベンチ入り指導者は、登録用紙兼メンバー表の選手の累積欄に前日までの個別の懲戒数を記載し提出する。出場停止など懲戒処分後の累積は「0」になるので、処分前の懲戒記録は記載しなくても良いが、当日の試合で新たな懲戒を受けた

場合は、当日の試合の懲戒数欄に警告・退場の数や出場停止等の処分を記載する。

- m ベンチスタッフの不正行為の発覚で**審判がスタッフ個人を特定できなかった場合は**、登録表兼メンバー表に記載された『責任順位番号』の**最上位の指導者**に警告もしくは退場が命じられる。
- n ベンチスタッフの代表者は試合終了後主審が記載した「結果報告書」の内容（得点、懲戒の有無）を確認し、記載内容に間違いが無かったら所定の欄に署名する。

⑧、審判 **競技規則の変更点を確認し、新ルールを理解して実践できる審判員であること。**

- a 試合は1人の主審と1人の補助審判（必須）で運営される。ただし準決勝からはブロック審判員を派遣して、4人審判（主審・副審×2・第4の審判）で行われる。
- b 試合の都度チームに割り当てられる審判任務への対応として、有資格で十分な経験のある審判員をチームに帯同させなければならない。
- c 帯同審判員は本大会に参加している他チームと掛け持ちで帯同審判員となることは不可とする。
- d 審判員は必要に応じ審判を行う前に審判資格証(アプリ画面可)を本部運営に提示し確認を受ける。
- e 審判員は「専用に販売されている審判服」の着用を必須とする。（黒ハーフパンツ等ではNG）
- f 審判員はワッペン・笛・トスコイン・時計・懲戒カード・記録用紙&ペンを揃えて審判を行う。
- g 審判員は割り当てられた試合の10分前の用具チェック時に合わせて指定の場所に集合し、メンバー表を基に両チームの参加選手の選手番号や氏名を確認し用具のチェックを行う。  
自チーム試合の次試合に審判任務を割り当てられ、その審判員がチームの試合のベンチ入り指導者2名に含まれる場合次試合の用具チェック時にベンチ入りが1名になる事は可とする。
- h 主審は担当試合の終了後、速やかにコート本部と記録を整合の上「結果報告書」に得点と懲戒の有無を記載し署名する。  
両チーム代表者は結果報告書の内容に同意したらそれぞれ所定欄に署名する。
- i 主審は「結果報告書」に記載署名した後「審判報告書」を作成し運営に提出する。  
この時の審判員が次試合のベンチ入り指導者の2名の内の1名であるなら、審判報告書作成やベンチ入りの準備が済むまで、次試合のベンチ指導者が1名でも可とする。
- j 競技者に退場を命じてチームが交代要員から競技者を補充している間、主審は試合を再開させない。
- k メディカルスタッフのコーチングを確認(補助審判からの報告も含む)した場合、主審はそのメディカルスタッフに警告する。警告後も繰り返す場合はメディカルスタッフに退場を命ずることが出来るが、警告2枚や退場となる反則を犯したメディカルスタッフは、他にそのチームで対応ができる医療担当がおります競技者に治療が必要な場合、試合に留まる事が出来る。
- l ベンチ入りスタッフの不正行為に対してイエローカードやレッドカードを示すことが出来るが、不正を働いた者が特定できない場合は、登録表兼メンバー表の指導者名の横に記載されている**責任順位番号の最上位の指導者に警告や退場**を示すことになるため、主審と補助審判は前以ってベンチ入りスタッフの最上位が誰かを確認しておく。

⑨、試合前～試合後 30分前と10分前は時間厳守のこと

- a チームの最初の試合開始30分前までに、登録用紙兼メンバー表の指導者の部分に、当日ベンチ入りする指導者の必要情報を所定の欄に記載し、且つ氏名左の欄に**責任能力上位の順に番号①②③④⑤(メディカルスタッフは「○」のみ)**を記載し、選手欄の必要事項記入及び前日までの試合で懲戒のあった選手の累積欄に懲戒数を記載（出場停止など既に懲戒処分が終了した分は記載しない）し、当日不参加の選手名を横線で消して、webから印字した電子選手証一覧と、とベンチ入り指導者全員のwebから印字して首掛け式の透明カードケースに入った指導者証を本部運営に提出する。  
メディカルスタッフがいる場合は、登録用紙の所定欄に氏名を記載し、メディカル証も提出する。
- b 試合開始10分前（必須）までに空気圧0.8berの試合球1個を持参し、参加選手全員が本部運営の指示する場所（主に本部横）に集合して、ボール・選手氏名・背番号・用具のチェックを受ける。
- c 競技者は用具チェック後はその場から離れることは出来ない。**離れた場合再度用具チェック**を行う。
- d 試合終了後両チームの代表者は、主審が記載した結果報告書に署名する。チームの当日全試合終了後はその日の登録用紙兼メンバー表を本部に提出する。

⑩、運営担当 ベンチ入り指導者の氏名・級・責任順位の確認 **責任順位最上位は主審に伝える。**

- a 運営は2チーム1名ずつで行う。運営担当は空気圧計と空気入れを持参し審判のチェックを補佐する。
- b 運営担当は気温の高い日にはWBGT計を持参し会場の所定の位置に設置したうえで、KO時とHT時の数値を結果報告書の所定欄に記載し、危険な数値になったら審判と本部に待機しているブロック役員に伝える。
- c 対戦表運営欄で、第1試合の左側に記載されていたチームの運営担当者は、当日そのコートで行われる全試合分の結果報告書と審判報告書及び懲戒台帳とその他報告書を持参する。
- d 運営担当者は試合中ベンチ指導者の不正行為を発見し個人を特定できたら、補助審判を通して主審に伝えなければならない。**個人が特定できなかった場合**ベンチ内の**責任順位最上位者**が懲戒を受けることになる為、登録表兼メンバー表に記載の責任順位最上位者を主審に伝える。
- e 試合中審判や本部で判断できない事由が生じた場合は、その場にいるブロック役員の判断を仰ぐか、ブロック委員長に連絡を取り相談する。役員不在や委員長と連絡が取れない場合は、予定通り試合を続け「ブロック委員長預かり試合」として、結果報告書には両チームの署名を求めず結果保留としておく。  
後日委員長の判断が出たら、委員長が両チームから直接署名を受領する。

- f 対戦表運営欄で最終試合右側の運営担当は、当日の試合を終了した全チームのメンバー表を回収し、ブロック競技部に渡すまで保管し、急ぎよ役員より求めがあったメンバー表は速やかに添付配信する。
- g 当日の競技部への報告内容は、全ての試合の「結果報告書」と懲戒のあった試合の「審判報告書」及び記載があった場合の「重要事項報告書」に懲戒チームのメンバー表と記載された場合の「その他報告書」をpdfもしくは鮮明な写メ(必ず鮮明)で、結果報告書の最上部に記載の宛先(競技部と委員長)に、当日の出来るだけ早い時間に添付配信する。
- h 運営担当者が試合中メディカルスタッフの戦術指示を確認した場合、速やかに補助審判を通して主審に伝える。  
同様にベンチ指導者の、その都度1人だけの戦術指示が守られていなかったり、ベンチより前に進んでいるなど不正行為を発見したら補助審判に伝える。(最終ジャッジは主審が担う)
- i 運営担当者は、主審が試合終了後に得点と懲戒の有無を記載し署名した結果報告書の内容を両チームの代表者と共に確認し、間違いが無ければチーム署名欄に両代表者の署名をもらう。
- j 運営担当者もしくはチーム関係者は誰でも、観客・指導者・審判員等の行き過ぎた言動を「その他報告書」に記載して委員長かブロック役員に手渡し又は競技部に配信して報告することが出来る。  
「その他報告書」には署名は不要(匿名可)で記載内容は「記載例」を参照とする。

#### ⑪、警告・懲罰および再試合など

- a ブロック大会期間中に累積で警告を2回受けた選手・スタッフは、次の1試合は自動的に出場停止となる。ブロック大会日程終了時点で、累積警告は消滅するものとする。
- b リーグ戦において退場を命じられた選手・スタッフは、その試合の以降の時間帯と次の1試合は自動的に出場できない。  
また、内容によっては東京都少年連盟の規律フェアプレー委員会へ報告し、追加懲罰が与えられる場合がある。
- c 競技者が退場を命じられた場合、試合が再開する前にその競技者のチームは、交代要員の中から**競技者を補充**しなければならない。
- d 試合が一方または両方のチームの責任なき事由(天災・悪天候・高気温・施設側または大会運営側指示)により開催不能や途中で終結した場合は原則「再試合」とする。再試合の日時・会場・審判員・選手登録などは新たに設定できる。
- e 大会本部および当該チーム合意のもと、やむなき事情により再試合が出来ない場合は、速やかに競技部とブロック委員長に報告する。委員長は役員を招集して協議し、その後の処置を決める。
- f 試合が一方あるいは両方のチームの責任における事由(集合場所への遅刻、選手証や指導者証の不携帯、人数不足、差別的言動、暴力、破壊行為、公文書偽装、会場ルール違反など)により主審や本部役員によって開催不能または中止と判断された場合は下記の対応とする。
  - A.一方のチーム責任による、開催不能もしくは中止の場合
    - ・そのチームの放棄試合として、不戦敗扱いとする。
    - ・不戦勝は得点3、不戦敗は得点0となる。
  - B.両方のチーム責任による、開催不能や中止の場合
    - ・無効試合として原則『再試合』とする。
    - ・再試合の日時、試合会場、審判員、メンバー登録などは新たに設定する事が出来る。
    - ・ただし、大会競技会本部及び当該チーム合意のもと、やむを得ない事情により再試合が不可能な場合は『引分け』とし、トーナメント戦の場合本部役員による抽選により勝ち上がりを決める。
 なお、A,Bにおいて内容によっては懲罰が与えられる。また重大事由の場合はブロック委員長から東京都少年連盟に報告され少年連盟規律フェアプレー委員会によって懲罰が決定される。
- g 試合会場運営本部で判断が出来ない事象のまま終了した「ブロック委員長預かり試合」は、後日委員長が主導するブロック役員会や東京都少年連盟との相談の上判断して両チームへ伝えた承を求める。
- h サッカーに対し敬意の無い行為(過激な応援・ヤジ・審判へのクレーム等々)を行ったチーム(選手・コーチ・応援含む)や、会場ルールを守らないチーム(選手・コーチ・保護者・その他のチーム関係の来場者)があった場合、それらは「結果報告書」「審判報告書」「その他報告書」等により委員長始めブロック役員に報告され、基本的にはブロック委員長からの注意喚起で対処するが、より悪質な場合は東京都少年連盟に報告され、懲罰の判断を仰ぐこととする。
- i 本協会諸規程および本記載事項にない問題事例に関しては、東京都少年連盟へ報告して判断を促す。

#### 【参考資料】

- サッカー競技規則 [https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/lawsofthegame\\_202021.pdf](https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/lawsofthegame_202021.pdf)
- 8人制サッカー競技規則 <https://www.jfa.jp/documents/pdf/eight/rules.pdf>
- 熱中症ガイドライン [https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke\\_guideline.pdf](https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_guideline.pdf)